

平成19年度 NPO協働提案推進事業評価票 【NPO】

団体名: NPO法人東上まちづくりフォーラム		事業名: 中高年と地元企業・NPOのマッチング支援事業		自己評価				評価日: 平成20年3月11日	
項目	小項目	よくできた (2点)	ふつう (1点)	できなかった (0点)	該当なし	合計	自由記述		
I. 事業の目的と目標の設定について	1. 事業の目的と目標の設定は妥当であったか。	○				(5/6)	中高年層に新しい就業オフィス選択肢を提供し、中高年SOHOエージェントという仕組みのモデルを作り出すという目標は達せたと思う。経費見積もりについては、予算と実際との差異が大きいものもあった。		
	2. 新規性のある内容であったか。	○							
	3. 経費の見積りは適切であったか。		○						
II. 事業の進捗に対するNPOと県との相互理解	1. 事業の進め方に対してはお互い、情報交換をして進めることができたか。	○				(6/6)	NPO側の自主性が重んじられ、その行動が妨げられることなく、逆に様々な面でアドバイスや支援を県側からもらうことができた。		
	2. NPOの自主的な活動を阻害されることなく事業が進められたか。	○							
	3. 対等な立場で事業効果を高める意見交換等ができ、相互理解が図られたか。	○							
III. 事業実施に当たって	1. トラブルが発生した際の対応は適切に行われたか。	○				(3/4)	予想がつかないことも多く現出したが、適切に対応できたと思う。		
	2. 事業実施に当たっては団体内部において十分に検討がなされていたか。		○						
IV. 事業に関する情報公開	事業に関する広報をホームページ等で積極的に行ったか。		○			(1/2)	ホームページで広報したが、更新をもっと頻繁に行えたほうがよかった。		
V. 事業の成果	1. 「事業実施にあたっての確認票」で整理した、当初の目的・目標などは達成できたか。	○				(10/10)	組織として活動し、それが団塊世代をはじめ中高年層にとっての支援になればと考えて活動を作ってきたが、そうした思いはほぼ当初の予定通りにクリアできたと考えている。県の支援があったこそ、予想を上回るすばらしい人材が集まってもらえたわけで、とてもNPO単独ではできなかった成果につながったと思い、大変に感謝している。中小企業家同友会をはじめ新たなネットワークもでき、NPOとしても新たな成長の契機とできた。		
	2. 「事業実施にあたっての確認票」で整理した、団体の役割を果たすことができたか。	○							
	3. 単独ではできなかったことができ、協働の効果があつたか。	○							
	4. 事業を通して、ネットワークが深まったり、新たなネットワークが生まれたか。	○							
	5. 団体として(当団体は)この事業を通して成長できたか。	○							
VI. 事業の波及効果	1. 「事業実施にあたっての確認票」で整理した、波及効果があつたか。		○			(4/6)	本事業での経験をマニュアル化したのが、その波及効果は今後に期待できる。秩父方面の参加メンバーがいなかった点で全県的な活動ではなかったとも言えるが、かなり広範囲にわたっての活動ができた。商工団体や一部の企業に対しての波及効果はあつたと思う。		
	2. 県の事業として十分に県域的効果をもたらしたか。		○						
	3. 市町村や企業など、他の団体にも波及効果があつたか。	○							
VII. 今後について	1. 市町村や企業など、他の団体の理解が得られ、今後の発展性が期待できるか。		○			(3/4)	市町村や企業に対しての知名度や浸透度については今後の課題でもある。産業・雇用分野における協働モデルとしては一つの先鞭となる事業だったと考えている。		
	2. 同じ分野における今後の協働モデルとしてふさわしい事業だったか。	○							
<p>「中高年SOHOエージェント」という、就職(雇用)や派遣、紹介ではない、個業(SOHO)としての働き方を支援する(中間支援)組織を創り出す、という課題に取り組んだ。これは、団塊世代はじめ中高年層に、多様な就業の機会を提供するという「団塊世代活動支援センター」の意図にも合致したものであつたと思う。もっとも印象深いのは、多くの「埼玉県のために働きたい」という企業OB人材が集まってきてくれたことである。これはとてもNPOの力ではできなかったことで、埼玉県との協働が生んだ成果であると思う。会議場所の提供をはじめ、人脈の紹介など、団塊世代活動支援センター側からは、数え切れないほどの支援を頂いた。また、商工団体、企業他から約70件の応札をいただいたのも、埼玉県との協働という有形無形の信用力に負うところもあり、協働できたからこそその成果であつたと改めて思い、感謝の念にたえない。</p>							32/38		